※令和４年度以降入学生用

学校番号	T3010

令和５年度　数学科

教科	数学	科目	教養数学Ⅰ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	高校数学Ⅰ（実教出版）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業では、問題に対して自ら考え、正解を導くという活動を行います。
・授業用のノートを用意し、板書をしっかり書き写してください。また自分で気づいたことがあれば、余白に記入してください。ノートは定期的に提出してもらいます。
・課題のプリントについては、答え合わせをして提出してください。間違えたところは、赤ペンで解答だけを書き写すだけでなく、途中式も書くようにしてください。

２　学習の到達目標

１年生で学習した数学Ⅰの内容を復習しながら、応用問題も取り扱います。その中で
・展開や因数分解といった基礎的な数式処理能力の育成(知識および表現)。
・複雑な数式を降べきの順や置き換え等で能率的に考察する能力の醸造(思考力・判断力・表現力等)
・解決困難な内容にも様々な知識を動員して解決に導くための粘り強さの向上(学びに向かう力・人間性等)
を目標とし、課題解決のための礎を定着させます。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数と式における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。	数と式を通して数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	ウォームアップ	ウォームアップ 1.　正負の数の四則計算 2.　分数の計算 3.　素因数分解 4.　ルートを含む式の計算 5.　５．文字式の計算	a:整式や分数の基本的な計算方法を理解し、正確に計算することができる。 b:学習した計算方法と関連付けて、式を多面的に考察することができる。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	提出ノート
	第1章数と式	第1節　整式 1.　文字を使った式のきまり 2.　整式 3.　整式の加法・減法 4.　整式の乗法	a:整式や分数の基本的な計算方法を理解し、正確に計算することができる。 b:学習した計算方法と関連付けて、式を多面的に考察することができる。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	提出ノート
2学期	第1章数と式	（第１節の続き） 5.　乗法公式による展開 6.　因数分解	a:整式や分数の基本的な計算方法を理解し、正確に計算することができる。 b:学習した計算方法と関連付けて、式を多面的に考察することができる。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	提出ノート
	第1章数と式	第２節実数 1.　平方根とその計算 2.　実数	a:数を実数まで拡張することの意義や実数が数直線上の点と１対１に対応していることを理解するとともに、簡単な無理数の計算ができる。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	提出ノート
	第1章数と式	第３節方程式と不等式 1.　１次方程式 2.　不等式 3.　不等式の性質	a:　１次方程式の解を求めることができる。 b:方程式や不等式に対する理解を深め、式を多面的に捉えて問題を考察することができる。 c:日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、１次方程式を問題解決に活用しようとしている。	確認テスト 定期考査	提出ノート 定期考査	提出ノート

※令和４年度以降入学生用

３学期	第1章数と式	4.　１次不等式 5.　連立不等式 6.　不等式の利用	a:　１次不等式の解を求めることができる。 b:不等式に対する理解を深め、式を多面的に捉えて問題を考察することができる。 c:日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、１次不等式を問題解決に活用しようとしている。	確認テスト 定期考査	提出ノート 定期考査	提出ノート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度